

* すべての問いには句読点・符号などは字数に含むこととします。

――次の文を読みあとの問いに答えなさい――

子どもの頃に読んだ、ちょっとした話がずっと心のなかに残っていることがある。次に紹介する話も、少年俱乐部あたりで読んだのだと思うが、妙に印象的で心のなかに残り続けていたものである。

何人かの人が漁船で海釣りに出かけ、夢中になつているうちに、みるみる夕闇ゆうやまが迫り暗くなつてしまつた。あわてて帰りかけたが潮の流れが変わったのか混乱してしまつて、方角がわからなくなり、そのうち暗闇になつてしまい、都合の悪いことに舟も出ない。A ヒッシヒッシになつて灯たい（いまつだつたか？）をかけて方角を知ろうとするが見当がつかaない。

そのうち、一同のなかの知恵のある人が、灯を消せと言う。不思議に思いつつ「気迫」にされて消してしまつと、あたりは真の闇である。しかし、目がだんだんとなれてくると、まったくの闇と思っていたのに、遠くの方に浜の町の明りのために、そちらの方が、ぼつと明るく見えてきた。そこで帰るべき方角がわかり B プジブジに帰ってきた、といつのである。

この話を読んで、方向を知るために、一般には自分の行手を照らすと考えられている灯を、消してしまつところが非常に印象的だったことを覚えている。

子ども心中にも何かが深く心に残るということはなかなか意味のあることのようだ、このエピソードは現在の私の仕事に重要な示唆ししゃくを与えてくれている。

子どもが登校しなくなる。困り切つてその母親が相談に行くと、学校の先生が、「過保護に育てたのが悪い」と言つ。そうだ、その通りだと思い、それまで子ども（ー）とり（ー）とりというような世話をしていたのを C 一切止めにしてしまう。ところが、子どもは登校しないどころか、余計に悪くなつてくる気がする。そこで他の人に相談してみると、子どもが育つてゆくためには「甘え」が大切である。子どもに思い切つて甘えさせるといい、と言われる。困ったときの神頼みで、ともかく言われたことをやってみるがうまくゆかcない。どうしていいかわからない」ということで、われわれ D センモン家のところにやつて来られる。

「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、それはそれなり一理があつて間違いだなどとは言えない。しかし、それは 目先を照らしている灯のようなもので、その人にとって 大切なことは、そのような目先の解決を焦つて、灯をあちらこちらとかかげて見るのはなく、一度それを消して、闇のなかで落ち着いて目をこらすことである。そうすると闇と思っていたなかに、ぼうーと光が見えてくるように、自分の心の深みから、本当に自分の子どもが望んでいるのは、どのようなことなのか、いつたい子どもを愛するということはどうなんのことなのか、がだんだんとわかつてくる。そうなつてくると、解決への方向が見えてくるのである。

不安にかられて、それなりの灯をもつて、うつうつする人（このことをできるだけのことをした、と表現する人もある）に対して、灯を消して暫らくの闇に耐えて貢う仕事を共にするのが、われわれ心理療法家じりゅうりょうひがの役割である。このように言っても、闇は怖いので、

なかなか灯を消せるものではない。時には、油がつきて灯が自然に消えるまで待たねばならぬときもあるし、急を要するときは、灯を取りあげて海に投げ入れるほどのこともしなくてはならぬときがある。そんなことをして、闇のなかに光が必ず見えてくるという保証があるわけでもない。従つて、個々の場合に応じて、心理療法家の判断が必要となつてくるのだが、その点については、ここで論じることはしない。

もっとも、不安な人は藁わらをもつかむ気持ちで居られるので、そのような人に適当に灯を売るのを職業にしている人もある。それはそれなりにまた存在意義があるので、にわかにE 善し悪しは言いえないが、それはセンモンの心理療法家ではないことは確かである。子ども心にも、特に印象に残る話というのは、やはりその人にとって、人生全体を通じての深い意味をもっているものなのだろう。子どもの頃に知つて記憶している話が、現在の自分の職業の本質と密接にかかわっていることに気づかれる人は、あんがい多いのではないか。

別に心理療法なんかを引き合いに出さなくとも、目先を照らす役に立つている灯 それは他人から与えられたものであることが多い を、敢あえて消してしまい、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇気は、誰にとっても、人生のどこかで必要なことと言つていいのではなかろつか。最近は場あたり的な灯を売る人が増えてきたので、ますます、自分の目に頼つて闇の中にものを見る必要が高くなつていると思われる。

河合隼雄『この人の処方箋』

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。

問二 二重線部a～eのうち他と異なるものを一つ選びなさい。

問三 (1)とり(2)とりについて「細かく・ていねいに」という意味になるように(1)(2)に入る言葉をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部 「妙に印象的で」とあります、筆者はどのように印象的だったと述べていますか。それがわかる一文を文中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

問五 傍線部 「示唆しげ」の意味として適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア 明確に気づかせること。
- イ はつきりと指摘すること。
- ウ それとなく気づかせること。
- エ 手に取るようになわからせること。

問六 傍線部 「目先を照らしている灯のようなもの」について以下の問いに答えなさい。

1 このような表現技法が使われていますか。適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア 擬人法
- イ 直喻法 (明喻)
- ウ 隠喻法 (暗喻)
- エ 倒置法

2 傍線部 が具体的に指している考え方を文中より三十字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部 「大切なこと」とあります、それを説明している部分を文中より一十字以内で抜き出しなさい。

問八 傍線部 「深い意味」とあります、それについて筆者はどのように説明していますか。次の選択肢から選びなさい。

- ア 子どもの頃の記憶が、過去の自分の職業の本質と密接にかかわっていること。
- イ 子どもの頃の記憶が、現在の自分の職業の本質と密接にかかわっていないこと。
- ウ 子どもの記憶が、将来の自分の職業の本質と密接にかかわっていないこと。
- エ 子どもの頃の記憶が、現在の自分の職業の本質と密接にかかわっていること。

問九 本文の内容と合致しないものを、次の選択肢の中から選びなさい。

- ア 目先を照らす灯を敢て消して、闇のなかに目をこらして遠い目標を見出そうとする勇気は、人生のどこかで必要なことだろう。
- イ 「過保護はいけない」、「甘えさせることが大切」などの考えは、間違いである。
- ウ 不安にかられて、うなづくする人に対して、灯を消してしばらくの闇に耐えてもらう仕事を共にするのが心理療法家の役割である。
- エ 最近は場あたり的な灯を売る人が増えてきたので、自分の目に頼つて闇のなかにものを見る必要が高くなっている。

二 次の文を読みあとの問いに答えなさい。

夕食のあいだじゅう、恭介はきげんが悪かつた。きげんの悪いとき、恭介はいつも思う。僕はジャングルに住みたい。
「もうすぐ、卒業式ね」「すきやきのなべにお砂糖をたしながら、お母さんが言った。
「そうしたら、恭介も中学生か」「お父さんが言った。
「まだだよ。まだ二月だから小学生だよ」「でも、もうすぐじゃないか。入学手続きだつてすませたんだろ」「うん」
恭介は ふつちょうづらのまま、しらたきを口いっぱいにほおぼつた。
今朝、学校に行つたら、女の子たちがサイン帖をまわしていた。もうすぐおわかれだね、とか、さみしいね、とか、そんなことばかり話していた。ひとりが、恭介のところにもサイン帖を持ってきた。
「俺、書かないよ」「どうして」

「だつて、さみしくねえもん」

女の子は きまり悪そうにそこに立っていた。

「何だよ。書きたくないんだからいいだろ」

「もういいわよ。暮林くんになんかたのまない」

女の子はサイン帖をかかえたまま、小走りで自分の席にもどった。

恭介にあつまる。

「ちえつ、何だよ」

恭介はどすんと席にすわった。机の上に、一時間めの教科書と、ノートと、ふでばこをだす。ちえつ、あいつも見ていた。ななめ前の方から、暮林くんのいじわる、という顔をして、恭介を見ていた。一時間めは算数だった。 担任の大島は男らしくない、と恭介は思う。たとえば今日だって、

「問五、暮林くん、やつてみてくれるかな」

なんて言つ。

「問五、暮林やれ」

がふつうだと思う。恭介は立ちあがつた。

「わかりませーん」

と言つ。算数はきらいじゃないけれど、今朝はなんとなくいやな気分だつたし、わかりません、と言えば先生が自分でやつてくれることがわかつていた。

「わからないのかあ。問四の A オウヨウなんだけどなあ」

先生は頭をかきながら、黒板に問題をといてみた。

「これは基礎だからね。これがわからないと中学に行つて B クロウするぞ」

給食は、あげパンと、とん汁と、牛乳とみかんだつた。恭介は給食当番で、かつぽう着を着て給食をとりにいく。

「やつた。とん汁だ」

恭介は、今までとん汁の日に給食当番になつたことが一度もなかつた。教室のうしろに立つて、一人一人の口器にとん汁をつぐ。みんなステンレスのお盆を持って一列にならぶ。あと三人、あと二人、あと一人。恭介はドキドキした。あいつの番だ。

「少しにして」

あいつが言つ。恭介は、なるべく豚肉の多そうなところを、じやぱつと D 勢いよくつぐ。なみなみとつがれたとん汁をみて、あいつはまゆをしかめた。

「少しにしてつて言つたでしょ」

「せんせーつ、野村さんが好き嫌いをします」

恭介が声をはりあげると、大島先生はまのぬけた声でこたえる。

「それはよくないなあ。野村さん、がんばつて食べて『ごらん』

野村さんは、大きな目できゅつと、恭介をにらみつけた。

お母さんが、恭介のちやわんに、くたくたに煮えたすきやきのにんじんを入れた。

「好き嫌いしてると背がのびないわよ」

実際、恭介は背が低かつた。野村さんは女子の中でもん中より少し小さく、その野村さんとならんで、ほとんどおなじくらいだった。

「もういるないよ。こちそうさまっ」

みんなの視線が

恭介ははしをおいて、二階にあがつた。部屋に入るとベッドの上に大の字に横になる。

野村さんの顔がうかんでくる。動物でいうならバンビだ、と恭介は思う。三年生の時にはじめていつしょのクラスになつて、四年生は別々で、五年生、六年生とまたいっしょになつた。野村さんについて恭介が知っていることといえば、Eホケン委員で、とん汁が嫌いで、女子にしては足がはやい、ことくらいだった。今朝あんなことがあつたから、今日は一寸、誰も恭介にサイン帖を持つてこなかつた。もちろん野村さんもだ。恭介はベッドからおりて、机のひきだしを開いた。青い表紙のサイン帖が入つている。ちえつ、恭介はひきだしをしめて、もう一度ベッドに横になつた。

中学にいつたら生活がかわるだろうなあ、と恭介は思った。勉強だつてしなくちゃいけないし、先生だつて大島みたいなのんきなやつじゃないにきまつてゐる。野球とか基地、ごっこばかりをやつてゐるわけにはいかなくなる。クラスのみんなもばうばらになつてしまふ。あいつなんか私立にいつてしまふから、なおさら会えない。　あーあ。ジャングルに住みた!

ジャングルに住んだら、と恭介は考える。勉強もない、家もない、洋服も着ない。穴をほつてその中で暮らそう。ライオンとゴリラを飼おう。狩りをして、その獲物を食べればいい。皮をはいで毛布にしよう。となりのぼら穴にあいつが住んでいて、僕があいつの分も狩りをしてやる。僕とあいつのほかには人間は誰もいなくて、猿とか、ヘビとか、しまうまとか、ペットっぽくない動物だけが住んでるといい。

(中略)

「あれ

下駄箱の奥に、白い表紙のノートが入つてゐる。サイン帖だつた。

「誰のだか?」

ぱらぱらとページをめくり、恭介はびくんとして手をとめた。あいつのだ。あいつのサイン帖だ。どのページもみんな、なみちゃんへ、で始まつてゐる。なみちゃんというのは野村さんの名前だつた。恭介は、すのこをがたがたとけつて校庭にとびだした。冬の透明な空氣の中を、思いきり走る。かばんがかたかた鳴る。

家にとびこんで、ただいま、と一声どなると、恭介は階段をかけあがり、自分の部屋に入つた。かばんの中からサイン帖をだす。野村さんのサイン帖。一ページずつ、たんねんに読む。おなじような言葉ばかりが並んでいた。卒業、思い出、別れ、未来。

「おもしろくないや」

声にだしてそう言つて、恭介はノートを机の上にぽんとほうつた。

その日はそのあとずっと、サイン帖のことが頭をはなれなかつた。夕食のあいだも、おふろのあいだも、テレビをみてゐるあいだも、恭介は頭のどこかでサイン帖のことを考えていた。みんなの前で、僕は書かないよつて言つたんだ。書けるわけがないじゃないか。それなのにこつそり下駄箱に入れるなんて、絶対、書いてなんかやるもんか。恭介はいつもより少し早く、自分の部屋にひきあげた。

ドアを開けると、机の上の白いノートがまつさきに目にとびこんでくる。あーあ。やつぱり僕はジャングルに住みたい。ジャングルには卒業なんてないもんな。そりやあ、中学にいけばいいこともあるかもしれない。あいつよりかわいい子がいて、大島よりほんやりした教師がいるかもしれない。でも、それはあいつぢやないし、大島ぢゃない。僕だつて、

今僕ではなくなつてしまふかも知れない。恭介は机の前にすわり、青いサインペンで、ノートに大きくこう書いた。

野村さんへ。

俺たちに明日はない。 暮林恭介

いつか観た映画の題名は、そつくりそのまま今の恭介の気持ちだつた。

江國香織『つめたい』による

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。

- 問二 傍線部「ぶつちようびら」の意味として適切なものを次から一つ選びなさい。
ア 無愛想な顔つき
イ 奇妙な顔つき
ウ 類を見ない顔つき
エ 珍しい顔つき

問三 傍線部「しらたきを口いつぱいにほおばつた。」とありますが、この時の主人公の気持ちが表れている部分を文中より八字で抜き出しなさい。

問四 傍線部「決まり悪そうにそこに立つていた」とありますが、どのような様子でそこには立つていましたか。次から適切なものを一つ選びなさい。

- ア 男の子のやり場が無くなり、何となくやらしい様子。
イ 男の子の立場が悪くなり、何となく困る様子。
ウ 女の子のやり場が無くなり、何となく恥ずかしい様子。
エ 女の子の立場が悪くなり、何となく腹立たしい様子。

問五 傍線部「みんなの視線が恭介にあつまる。」とあります、なぜですか。その理由として適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア みんなが、恭介のやさし過ぎる態度を冷ややかに受け取つたから。
イ みんなが、恭介のまじめな態度を好意的に受け取つたからから。
ウ みんなが、恭介の意地の悪い態度をあまりよくないことと思つたから。
エ みんなが、恭介の冷ややかな態度を怖いと思つたから。

問六 傍線部 「担任の大島は男らしくない、と恭介は思う。」とあります。が、なぜですか。その理由として適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア やる気のない態度をとると、大島先生は励ましてくれるから。
イ いい加減な態度をしても、大島先生は言い方も注意ものんきな感じだから。
ウ だらしのない態度をとると、大島先生はその場で注意を与えてくれるから。
エ いい加減な態度をとると、大島先生は反省するまでじついくお説教をするから。

問七 傍線部 「野村さんは、大きな田できゅうと、恭介をにらみつけた。」とあります
が、なぜですか。その理由を四十字以内で答えなさい。

問八 傍線部 「あーあ。ジャングルに住みたい。」とあります。が、この時の主人公の気
持ちとして適切なものを次から一つ選びなさい。

- ア ジャングルでは、僕とあいつの他には人間がないので、一人で暮らせるだろ
う。
イ ジャングルでは、ライオンとゴリラを飼つて、動物たちとずっと仲良く暮らす
ことができるだろう。
ウ ジャングルでは、猿とか、ヘビとか、しまうまとか、ペットっぽくない動物た
ちとだけ仲良く過ごせるだろう。
エ ジャングルでは、穴をほつてその中で暮らし、誰にも見つからず、一人でひつ
そりと暮らせるだろう。

問九 傍線部 「俺たちに明日はない。」とあります。が、主人公はどのような気持ちで、
このメッセージを書いたのでしょうか。その気持ちとして適切なものを次から一つ
選びなさい。

- ア この学校で過ごした時がいそがしく、卒業、思い出、別れ、未来など、明日の
ことを考える時間さえなく、困っている気持ち。
イ この学校で過ごした時がいとおしく、卒業、思い出、別れ、未来など、現在を
過去のものにはどうしてもしたくない気持ち。
ウ この学校で過ごした時間がいいかけんなものだったので、まだ努力をしなけれ
ば卒業をすることなどできないという、あせる気持ち。
エ この学校で過ごした時間に満足できており、卒業に向けて、仲間と共にサイン
帖を協力して書き上げようとする誠実な気持ち。

問一 ア 苦勞 イ 一列 ウ いきお(い) エ 橫 才 きち
問二 きげんが悪かった

嫌いなとん汁をなみなみとつがれた上に、先生に食べ物の好き嫌いを注意されたか
ら。(三十九字)

問八 イ ア

問七 ウ

問六 エ

問五 エ

問四 ウ

問三 エ

問二 イ

問一 ウ